

タイトル	アウシュヴィッツ殉難者数 — フランチシェク・ピペルの推定 —
著者	木村, 和範; KIMURA, Kazunori
引用	北海学園大学学園論集(196): 31-52
発行日	2025-03-27

アウシュヴィッツ殉難者数

—— フランチシェク・ピペルの推定 ——

木 村 和 範*

はじめに

1. アウシュヴィッツ複合収容所
 - (1) 概説
 - (2) 登録システム
2. 移送者数と死亡者数の推定（その1：戦争直後）
 - (1) 収容者と親衛隊幹部による推定
 - (2) 捜査機関による推定
3. 移送者数と死亡者数の推定（その2：400万人説をめぐって）
 - (1) 400万人説の継承
 - (2) 400万人説への疑問
4. 移送者数と死亡者数の推定（その3：ピペルの推定（1996年））
 - (1) 移送者数（約130万人）
 - (2) 死亡者数（約110万人）

おわりに

付表 アウシュヴィッツへのユダヤ人移送者数（1940年～1945年）

はじめに

1941年7月に帝国元師ヘルマン・ゲーリングから委任を受けてユダヤ人問題を解決することになり、帝国保安本部（Reichssicherheitshauptamt der SS: RSHA）を束ねるラインハルト・ハイドリヒ（ボヘミア・モラビア保護領

の事実上の長官を兼務）は、1942年1月20日、関係する主立ったドイツの高級官僚と高級将校、合わせて14人をヴァンゼー湖畔（ベルリン郊外）のナチス親衛隊別荘に会議のために招集した。ハイドリヒが主宰したこの会議は、「ヴァンゼー会議」⁽¹⁾と言われている。

(1) “Wannsee Conference,” Website of the United States Holocaust Memorial Museum, <https://encyclopedia.ushmm.org/content/en/timeline-event/holo>

* 本学名誉教授

アドルフ・アイヒマン(帝国保安本部第IV B4課長(ユダヤ課長)⁽²⁾)がとりまとめた議事録を「ヴァンゼー議定書」と言う⁽³⁾。この会議においてユダヤ人問題の「最終解決(Endlösung)」の方針が具体的に定まった。婉曲的に表現された「最終解決」とは、ユダヤ人の肉体を完全に消し去ること、換言すればユダヤ民族の根絶(絶滅)を意味する。

この「最終解決」の最前線にあって、「死の工場」となり、ナチス・ドイツによるホロコーストを象徴する収容所がアウシュヴィッツ複合収容所である。この収容所は1945年1月27日にソ連軍によって解放されるまでのおよそ4年半、ユダヤ人絶滅工場としての絶滅収容所と強制労働のための強制収容所の機能を併せ持つ収容所の中の収容所であった。

収容所が開所から解放されるまでの間、アウシュヴィッツにはどれだけの人間が移送されてきたのか。また死亡者はどれだけのなのか。犠牲者は100万人とも400万人とも言われているが、アウシュヴィッツ=ビルケナウ強制収容所記念博物館のホームページ(日本語版)⁽⁴⁾によれば、移送された者が約130万

人、死亡した者が約110万人とされている(表1)。今日では、この推定数字が定説となっている。様々な資料と先行研究に基づき推測を重ねて、この数字を推計したのは、発表当時のポーランド国立アウシュヴィッツ=ビルケナウ記念博物館歴史部長フランチシェク・ピペルである(1991年)。

それは、以下の論文で公表された。

Franciszek Piper, *Auschwitz. How many perished Jews, Poles, Gypsies.....*, Oświęcim, 1996. Originally published as “Estimating the Number of Deportees and Victims of the Auschwitz-Birkenau Camp,” in: *Yad Vashem Studies*, Vol. XXI, Jerusalem, 1991. (以下、以下引用は1996年版により、Piper (1996: page(s)) と略記する。)

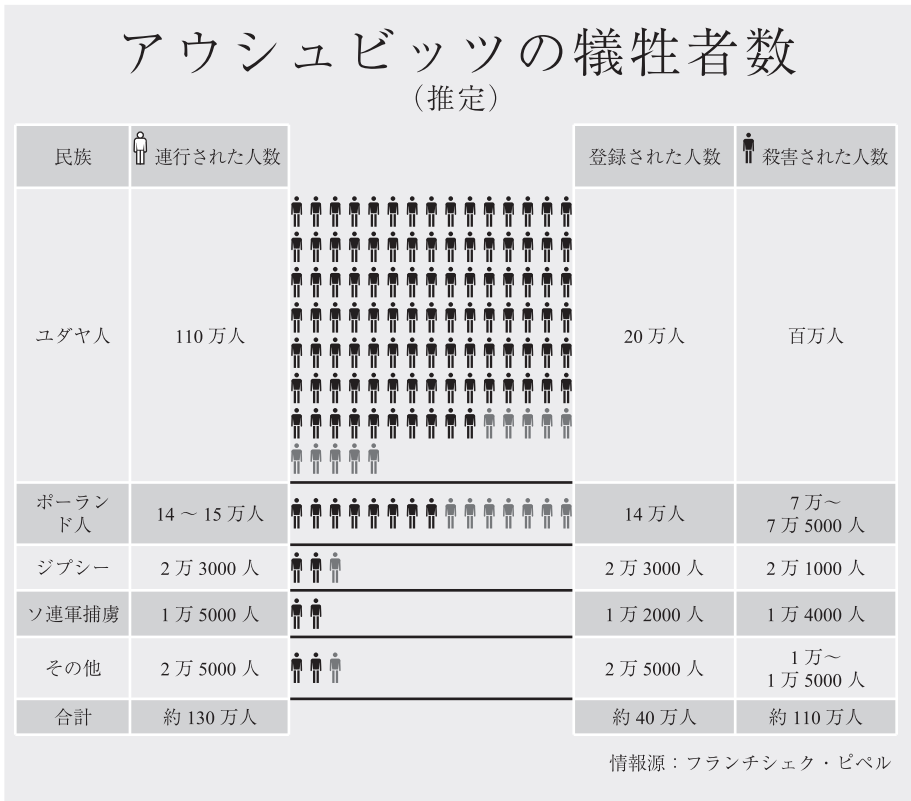
各種推計にとって必要な情報(収容所の歴史や収容システム、重要人物の役割など)に適宜言及しながら、論を進めているこの論文が *Yad Vashem Studies* に掲載されてから、すでに30年近くが経過した。その間、ピペルの研究は、推定の域を超えて定説となった。この意味で、世界にインパクトを与えたピペル論文の学術的意義は小さくない。ピペル論文を紹介する理由もまた、そこにある。

本稿では、最初にピペル論文の随所で述べられているアウシュヴィッツに関する関連情

caust/1942-1945/wannsee-conference, accessed on Nov. 12, 2024.

(2) 第IV局はゲシュタポ、その下のB部は宗教、さらにその下の第4課はユダヤ教を担当した。
(3) ヴァンゼー会議記念館編、山根徹也・清水雅大訳『資料を見て考えるホロコーストの歴史——ヴァンゼー会議とナチス・ドイツのユダヤ人絶滅政策——』春風社、2015年。会議と議定書については、同116頁以下参照。
(4) 「アウシュビッツ・ビルケナウ その歴史と今」(12頁)、アウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所記念博物館日本語サイト(Website of the Memorial and Museum Auschwitz-Birkenau Former German Nazi Concentration and Extermination Camp, https://www.auschwitz.org/gfx/auschwitz/userfiles/auschwitz/historia_terazniejszosc/auschwitz_historia_i_terazniejszosc_wer_japonska_2010.pdf, accessed on February 21, 2023), Cf. https://www.auschwitz.org/gfx/auschwitz/userfiles/auschwitz/historia_terazniejszosc/auschwitz_historia_terazniejszosc_wer_angielska_2010.pdf

表1 アウシュヴィッツの犠牲者数



(出所)「アウシュビッツ・ビルケナウ その歴史と今」アウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所記念博物館日本語サイト (Website of the Memorial and Museum Auschwitz-Birkenau Former German Nazi Concentration and Extermination Camp, https://www.auschwitz.org/gfx/auschwitz/userfiles/auschwitz/historia_terazniejszosc/auschwitz_historia_i_terazniejszosc_wer_japonska_2010.pdf, accessed on February 21, 2023)。

報に加筆を施して、それを一括して取り上げる。その後、ピペルが注目した先行研究に言及し、最後にピペルの推計（移送者 130 万人、死亡者 110 万人）を紹介する。

1. アウシュヴィッツ複合収容所

(1) 概説⁽⁵⁾

クラクフ（ポーランド）から西に約 60 哩⁵の

(5) アウシュヴィッツ複合収容所にかんする簡単

な形成史は、アメリカ合衆国立ホロコースト記念博物館 (United States Holocaust Memorial Museum (USHMM)) のホームページでも取り上げられているが、ここではピペルの著作に沿って概説する。前出「アウシュビッツ・ビルケナウ その歴史と今」(アウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所記念博物館日本語サイト https://www.auschwitz.org/gfx/auschwitz/userfiles/auschwitz/historia_terazniejszosc/auschwitz_historia_i_terazniejszosc_wer_japonska_2010.pdf, accessed on February 21, 2023, Cf. https://www.auschwitz.org/gfx/auschwitz/userfiles/auschwitz/historia_terazniejszosc/auschwitz_historia_terazniejszosc_wer_angielska_2010.pdf) のほかに、適宜、[アメリカ合衆国立ホロコースト記念博物館] の日本語サイト、「アウシュビッツ」(<https://encyclopedia>

所にあるアウシュヴィッツ複合収容所は、3つの主要収容所と周辺の施設設備からなる。

アウシュヴィッツ第1収容所は、アウシュヴィッツ（ポーランド語の地名はオシフィエンチム）に、1940年5月20日に開所した。この地には、ポーランド軍の兵舎とポーランドたばこ会社の倉庫などがあったが、ドイツ軍はその一帯を収容所として使用した。これは基幹収容所とも言われ、複合収容所全体を統括する管理部門、即決裁判所、処刑場、人体実験棟、死体焼却場などを擁する強制収容所である。

アウシュヴィッツ第2収容所は、第1収容所の西約3¹/₂のブジェジンカに造成され、1941年10月8日に開所した。その地は、Birken（シラカバ）が自生したAu（低地）であったことから、ビルケナウ収容所とも言われる。この収容所には4ヶ所の死体焼却場があり、文字通りの「殺戮工場」であり、強制収容所であるとともに絶滅収容所でもあって、アウシュヴィッツをアウシュヴィッツたらしめた収容所である。

アウシュヴィッツ第3収容所の開所は、第2収容所と同じ頃の1942年10月である。これは、第1収容所の東約4¹/₂のモノヴィツェにあるが、ドイツ語の地名を用いた名称で呼ばれることが多い（モノヴィッツ収容所）。この収容所にはI.G.ファルベン社、クルップ社、シーメンス社などのプラントがあったが、I.G.ファルベン社の合成ゴム工場ではその原料がブタジエンとナトリウムであったことから、工場全体は「ブナ工場」「ブナ」と言われ、収

容所全体もしばしば「ブナ」と言われる。

この他にアウシュヴィッツ地域には、植物由来のゴム生産のための実験農場などがあり、それらが付属して複合体をなしていた。

以下では、アウシュヴィッツの地に収容所が作られるようになった経緯について述べる。1933年1月に首相として政治権力を奪取したヒトラーによる新内閣が成立すると、国中からユダヤ人を駆逐しユダヤ人がいない国を標榜するナチス政権は、ユダヤ人国外追放政策を強化した。このため1938年になると、約15万人のユダヤ人が難を逃れて、海外に逃亡した。これはドイツ在住ユダヤ人の25%に該当すると言われている（約45万人のユダヤ人が残っていたことになる）。また、1938年3月のアンシュルス^{アンシュルス}独逸合併により、ドイツは18万5000人のオーストリア・ユダヤ人を自国に抱えることになった⁽⁶⁾。さらに1938年9月のミュンヘン会談でズデーテンラントをチェコスロバキアから割譲させたことにより、同地方に居住していたユダヤ人がこれに加わった。こうして国外脱出を求めるユダヤ人の数がいっそう増えた。

窮状にあるユダヤ人に手を伸ばすべく、1938年7月6日～15日にフランスの保養地エヴィアンで難民問題をテーマに会議が開催された（エヴィアン会議）⁽⁷⁾。しかし、会議で

(6) “The Evian Conference,” Website of the United States Holocaust Memorial Museum, <https://encyclopedia.ushmm.org/content/en/article/the-evian-conference>, accessed on Nov. 12, 2024.

(7) エヴィアンの難民会議(1938年7月6日～15日)の参加国は以下のとおり。アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、ボリビア、ブラジル、カナダ、チリ、コロンビア、コスタリカ、キューバ、デンマーク、ドミニカ共和国、エクアドル、フランス、グアテマラ、ハイチ、ホンジュラス、

ushmm.org/content/ja/article/auschwitz-1, accessed on February 21, 2023) も参照した。

はユダヤ人に同情は示すものの、その受入については消極的な意見が大勢を占め、ユダヤ人の受入を表明したのは、参加国 32ヶ国中ドミニカ共和国とコスタリカの2ヶ国だけであった。この会議を評して、ウィリアム・ブルーステインは次のように述べている。

西側の代表団の中には、ユダヤ人の受入枠の拡大についての自国の消極的姿勢を正当化しようとした者もいた。既存の受入枠を変更すれば、東欧諸国が何万人もの好ましからざるユダヤ人を西側に追放することになるのではないかと強く懸念したからである。結局、ドミニカ共和国、後にコスタリカの代表だけが、自国の受入枠を増やすことに同意した。世界中がドイツとオーストリアのユダヤ人難民を見棄てたように見えた。このこと自体驚くに足りないが、ナチス政権には、反ユダヤのキャンペーンによりプロパガンダ大賞が授与されたのである⁽⁸⁾。

このように諸外国によるユダヤ人の受入が

ままならない状況の下で他国に侵攻して版図を拡大すれば、それだけ多くのユダヤ人を抱え込むことになる。「ユダヤ人がいない」ことを国是とするドイツ社会は、その理想から遠ざかる。自己矛盾に陥ったドイツは、この「ユダヤ人問題」をユダヤ人の大量絶滅によって解決しようとした。ピペルによれば、ドイツでは、ソ連への奇襲攻撃(1941年6月22日)に始まった独ソ戦(ドイツ軍の作戦名は「バルバロッサ」)の少し前に、「ユダヤ人を強制移住させたり、どこかの保留地に移送したりするのではない、ユダヤ人は根絶やしにするのだという決定」がなされた⁽⁹⁾。

それが実行可能な場所はどこか。ピペルによれば、1941年3月1日、アウシュヴィッツを視察した親衛隊帝国指導者ハインリヒ・ヒムラーは、「『戦場になっている東部では、大規模作戦[ユダヤ人の大量絶滅作戦]は実行できないだろう。』と言って、アウシュヴィッツ収容所を『最終解決』作戦に使用することに決めた。」⁽¹⁰⁾

これに続けてピペルはアウシュヴィッツが選定された理由として、①鉄道アクセスの良善性と②外界からの遮断可能性を挙げている。しかし、東部戦線から離れているなどの地理的な理由だけで、ヒムラーが選定したわけではないとも指摘している。「アウシュヴィッツには機能的な技術インフラを備えた目的に適う収容所があったこと、そして何よりも[ルドルフ・]ヘスがいたことが決め手になった。」と指摘し、ヘスのことを次のように述べている。

アイルランド、メキシコ、オランダ、ニュージーランド、ニカラグア、ノルウェー、パナマ、パラグアイ、ペルー、スウェーデン、スイス、イギリス、アメリカ、ウルグアイ、ベネズエラ。"Participating Countries - Évian Conference," Website of the Konferenz von Évian - Online-Ausstellung, <https://evian1938.de/en/participating-countries/>, accessed on Nov. 12, 2024.

(8) William I. Brustein, *Roots of Hate: Anti-Semitism in Europe Before the Holocaust*, Cambridge and New York: Cambridge University Press, 2003, p. 2. Available in: Website of the Google Books, https://books.google.co.jp/books?id=Hc3HabBQsdsC&pg=PA2&redir_esc=y#v=onepage&q&f=true, accessed on Nov. 12, 2024.

(9) Piper (1996: 20). 以下、訳文中の[]内は引用者による。

(10) Piper (1996: 19).

1922年にナチスに入党し党員番号3240番のヘスは、党の最も経験豊富な古参党員の一人であり、ヒトラーの最も有力な腹心の部下にして党官房長のマルティン・ボルマンとも個人的な付き合いがあった⁽¹¹⁾。

アウシュヴィッツでの視察を終えたヒムラーは、ヘスをベルリンに召喚して、協議を重ねた。その後、アウシュヴィッツに戻ったヘスは、アドルフ・アイヒマンと連携して、組織だったメカニズムで稼働する殺人工場建設の準備を進めた。

ピペルは、ヒムラーによる視察とヘスのベルリン召喚以降になされたアウシュヴィッツの施設拡充の経緯を次の4つの時期に分けている⁽¹²⁾。

- ① 1941年8月～9月：殺虫剤（チクロンB）による人体殺傷の能力研究
- ② 1941年末：基幹収容所におけるチクロンBの検証実験（この施設は1942年12月まで散発的に使用）
- ③ 1942年前半：ビルケナウに2棟のガス室建設。立ち退かせた農家の納屋2棟をガス室に改築（第1ブンカー、第2ブンカー）。
- ④ 1943年3月22日～6月26日：ビルケナウの第2死体焼却場～第5死体焼却場稼働（基幹収容所にあるのが第1死体焼却場）。1日の死体焼却能力4416体（第2、第3：各1440体；第4、第

5：各768体）

この②と③の2つの時期の間に、以後のアウシュヴィッツのありようを決定づける出来事があったとピペルは指摘している。それは、開所当時は、必ずしも絶滅収容所ではなかったアウシュヴィッツ複合収容所を絶滅センターとして機能するように変質させた1942年2月15日の出来事である。ピペルは次のように述べている。

形式的に言えば、この二つの時期を分かつのは、[ポーランドの]ピトム[Bytom, クラクフの北西約88^{km}]からのユダヤ人集団の第一陣を乗せた移送列車が収容所に到着した1942年2月15日である。この日をもって、アウシュヴィッツはヨーロッパ・ユダヤ人の最終的な絶滅プログラムの中に名実ともに組み込まれることになった⁽¹³⁾。

④の時期以降については以下のとおりである。1940年4月29日にアウシュヴィッツに責任者として着任したヘスは、1943年11月11日にアウシュヴィッツ複合収容所の総司令官をアルトゥール・リーベンシャルに引き継いだ⁽¹⁴⁾、およそ半年後の1944年5月8日には総司令官としてアウシュヴィッツに

(13) Piper (1996: 4).

(14) リーベンシャルと交代したヘスは、親衛隊経済管理本部（SS-Wirtschafts-Verwaltungshauptamt: WVHA）D局第1部に異動し、リーベンシャルの後任として同部長に就任した。D局は強制収容所を担当し、その第1部はD局の管理部門である。ヘスは、直属上司のD局長リヒャルト・グリュックスの下で強制収容所監察副官にも就任した。

(11) Piper (1996: 19).

(12) Piper (1996: 21).

表2 アウシュヴィッツにおける登録者数 (1940 年～1945 年) (人)

カテゴリー	男	女	合計
(i) 収容者番号が数字のみの者	202 499	89 325	291 824
(ii) 数字の前に A が付くユダヤ人	20 000	29 354	49 354
(iii) 数字の前に B が付くユダヤ人	14 897	—	14 897
(iv) EH (要再教育)	9 193	1 993	11 186
(v) RKG (ソ連軍捕虜)	11 964	—	11 964
(vi) Z (ジブシー)	10 094	10 888	20 982
合 計	268 647	131 560	400 207

- (訳注) 1. 収容者の増加に伴い、連番を避けて数字の前に A を付けた番号を発行し、その後 B を数字の前に付けた。
 2. EH は Erziehungshäftlinge (ほとんどがポーランド人)。後述するように、これに未登録者 12 万 5922 人が加わり、ポーランド人の移送者は、13 万 6922 人 (13 万人～14 万人) と推計される。
 3. RKG は Russische Kriegsgefangene。
 4. 表の番号とタイトルは訳者による。

(出所) Piper (1996: 17).

戻ってきた。同年 3 月 19 日にドイツはハンガリーを占領し、このために早晩ハンガリー・ユダヤ人を強制移送することになり、その移送先としてアウシュヴィッツに白羽の矢が立ったからである。ヘスの異動はこの大量移送に備えたためであったと見てよからう。

ヘスが就任の翌日 (1944 年 5 月 9 日) に発出した命令は、以下のとおりである⁽¹⁵⁾。

- ① 到着する移送列車ための新ランプ建設
- ② 第 4 死体焼却場の再稼働
- ③ 第 4 死体焼却場近くでの野外死体焼却場の掘削
- ④ 臨時ガス室 (第 2 ブンカー) の再稼働
- ⑤ 第 2 ブンカー付近での脱衣小屋の建設
- ⑥ 以上を実行するための全死体焼却場の指揮官としてオットー・モルの任命

さらに、ヘスは、同日、以下を命令した。

- ① 死体焼却場での死体処理を担当するゾンダーコマンド⁽¹⁶⁾の増員
- ② 移送者から没収した携行荷物の整理と保管を担当する作業員 (「カナダ」⁽¹⁷⁾の作業員) の増員

(2) 登録システム

労働適格性の識別を「選別」と言う。アウシュヴィッツに移送されてきた者が労働適格と判断された場合、収容登録番号をその収容者の腕に入れ墨をするのが通例である。全期

(16) 降車場 (ランプ) に到着したユダヤ人の携行荷物の回収、ガス室前室の脱衣場での指示、ガス殺後の死体の焼却、遺骨と遺灰の回収と投棄等を担当した収容者。なお、侵攻したドイツ軍の後方で治安維持などのために住民を虐殺した特別分遣隊の隊員で特殊任務を帯びた兵士も Sonderkommando と言われるが、収容所のゾンダーコマンドとは異なる。

(17) カナダは豊かな国の象徴的存在であり、没収した荷物が豊富に収蔵された倉庫群は「カナダ」と言われた。

(15) 木村和範「囚人医師ミクローシュ・ニスリの回想録について」『学園論集』(北海学園大学), 第 187 号, 2022 年 3 月, 78 頁。

間の登録者総数は約40万人である(表2)。ただし、1944年5月以降は、ハンガリー・ユダヤ人約3000人を一本の列車に乗せた移送列車が一日に4本到着するようになると、到着日の選別と即日登録は不可能になった⁽¹⁸⁾。到着直後の選別でガス室に送られた者も少なくない。

移送された者に対する本格的選別が始まったのは、1942年7月4日以降である⁽¹⁹⁾。アウシュヴィッツでもっともよく知られている選別は、到着直後にランプと言われた降車場で行われた労働適格者とそうでない者との振分けである。病気や怪我などのために収容所内の病舎で加療中の収容者には、定期検査や抜き打ち検査があった。そのときに行われた労働の適否判断も選別と言われている。

労働不適格と判断された圧倒的大多数(子どもを含む)は、ガス室に送られる。収容者として登録されなかった者の中には、「経過ユダヤ人」として一時的に収容され、後日、収容者として登録される者や他の収容所に移送された者もいる。ユダヤ人は、登録されないままに、ランプからただちにガス室に連行された者が多い。

2. 移送者数と死亡者数の推定 (その1: 戦争直後)

(1) 収容者と親衛隊幹部による推定

ピペルの著書の関連箇所から推計数字を拾ってまとめれば、次表のようになる(表3)。

収容所に囚われの身として収容されていた収容者が詳細数を把握できなかったことは当然としても、親衛隊の隊員でも実態をよく把握していなかったことが分かる。

ピペルによれば、これらの証言の中で西側が最も信頼したのは、ヘスがニュルンベルク裁判で供述した250万人説であった。後日、ヘスは回想録の中で次のように250万人説を否定している。

私は、以前〔ニュルンベルク裁判〕の供述でアウシュヴィッツ^(ママ)に移送されたユダヤ人は250万人と述べた。この数字の出所は、[アドルフ・]アイヒマンである。ベルリン包囲が完了する少し前に、私の上司であった親衛隊中将[リヒャルト・]グリックス[経済管理本部D局長]が親衛隊帝国指導者[ハインリヒ・ヒムラー]への報告のために召喚されたときに、アイヒマンは、私の元上司[グリックス]にこの数字を伝えた。殺害者総数のデータを持っていたのは、アイヒマンとその副官ロルフ・ギュンターだけである[このロルフは、プラハ・ユダヤ人移民中央事務所長ハンス・ギュンターの弟]。親衛隊帝国指導者の命令により、大規模作戦[ユダヤ人絶滅作戦]が終了次第、殺害人数の情報源となりうる一切の公文書は焼却することになっていた。[親衛隊経済管理本部]D局第1部長である私は、部局に保管する全文書をみずから廃棄した。他の部局でも同様である。アイヒマンの言うところによれば、親衛隊帝国指導者ならびに帝国保安本部

(18) Piper (1996: 24).

(19) Piper (1996: 22).

表3 収容者と親衛隊幹部による推定

日付等	公表(証言)者	時期	犠牲者数(推定)	備考
1943年2月24日	ポーランド亡命政府(ロンドン)	開所～1942年12月15日	64万人	収容者による通報
1943年11月19日	イエジー・タボー		150万人	日付は脱走日
1944年4月7日	アルフレッド・ヴェツラーとルドルフ・ヴルバ	1942年4月～1944年4月	ユダヤ人 176万5000人	日付は脱走日
戦後に発見	ザルマン・グラドフスキー		数百万人	ゾンダーコマンドによる埋設文書
戦後に発見	ザルマン・レヴェンタル		数百万人	同上
1945年4月16日	アルター・ファインシルバー		最少200万人	ゾンダーコマンドの証言
戦後の証言	ヘンリク・マンデルbaum	全期間	450万人(同僚の話)	1944年6月～1945年1月, ゾンダーコマンドの証言
戦後の証言	ラフワロワ		400万人～500万人	ビルケナウ政治部* 事務所収容者(親衛隊員からの話)
ヘス裁判での証言	ヴロジミールツ・ビラン		500万人	ビルケナウ政治部事務所(親衛隊員)
回想録	ベリー・ブロード		200万人～300万人	親衛隊員
	フリートリヒ・エントレス		200万人～250万人	1942年～1943年, 収容所軍医
1946年4月15日, ニュルンベルク国際軍事法廷での証言	ルドルフ・ヘス		250万人。過労死と病死50万人。ロシア軍捕虜2万人。ドイツのユダヤ人約10万人など。1944年夏, ハンガリー・ユダヤ人約40万人。	収容所総司令官, 親衛隊経済管理本部D局第1部長[中央管理部門]。ポーランドに引き渡されてからは, 250万人説を撤回。

(注) * 政治部は収容所に置かれたゲシュタポの謂。

(出所) Piper (1996: 5ff.).

の公文書も廃棄されたが、アイヒマンが個人的な控えとして使用していた書類だけは、何らかの指示で手元に留め置かれた可能性がある。たとえ過失によって、執務室に公文書や電報が残されていたとしても、それには犠牲者総数に関する情報が含まれているはずはない。私は全体数字を知らなかったし、それを計算でき

るような資料も持ち合わせてはいなかった。今ここで思い出す比較的大規模な作戦による数字は、アイヒマンやその部下から何度も聞かされていた。具体的には、アッパー・シレジアと[ポーランド]総督府25万人、ドイツとテレジーン[テレジエンシュタット]10万人、オランダ9万5000人、ベルギー2万人、フランス

表4 死体焼却場の稼働能力の推定

場所	死体焼却場番号	存続期間 (月)	月間焼却能力 (体)	全期間の焼却数(体)
オシフィエンチム	第1	24	9 000	216 000
ビルケナウ	第2	19	90 000	1 710 000
同上	第3	18	90 000	1 620 000
同上	第4	17	45 000	765 000
同上	第5	18	45 000	810 000

(訳注) 1. 死体焼却場の第1番は第1収容所(オシフィエンチムの基幹収容所)にあった。以下4施設は第2収容所(ビルケナウ収容所)にあった。現存する焼却場は第1のみであり、その他4施設は1945年1月にドイツ軍が撤退するまでに破壊された。

2. 表中の全期間の焼却数を足し上げれば、その総計は512万1000体である。

(出所) 表は「ドイツ・ファシスト侵略者の犯罪調査のための国設特別委員会(Extraordinary State Commission for the Investigation of the Crimes of German-Fascist Aggressors)」の調査結果(表番号と表のタイトルは引用者)。ただし、引用はPiper(1996: 11)による。

11万人、ギリシア6万5000人、ハンガリー40万人、スロバキア9万人である。その他の小規模な作戦に関する数字は記憶にないが、これらの数字に比べれば取るに足らない(insignificant)。私見によれば、250万人という数字は大きすぎる。アウシュヴィッツでさえも、絶滅には限界があったのだから⁽²⁰⁾。

このようにヘスは死亡者を250万人とした供述を否定している。しかし、ニュルンベルク裁判では、当初の証言に基づいて250万人が認定された(後述)。ただし、上述のヘスの

数字を足し上げれば死亡者は約113万人となり、その内訳は異なっているものの、総計としてはピペルの推定(約110万人)に近い数字となっている(後述)。

(2) 捜査機関による推定

戦後になって、ソ連やポーランドが派遣した調査委員会の推定は、アイヒマンが言ったとされる数字(250万人)はもとよりヘスの数字(113万人)をはるかに上回るものであった。

ソ連が派遣した「ドイツ・ファシスト侵略者の犯罪調査のための特別国家委員会(Extraordinary State Commission for the Investigation of the Crimes of German-Fascist Aggressors)」(以下、「ソ連委員会」と言う。)は連合国側として最初に調査を実施した。解放後1週間経った1945年2月4日、アウシュヴィッツにはまだ数千人の収容者がいた。この委員会は、生残者による目撃証言(200件)の録取、ドイツ軍が残した公文書、殺戮施設の点検などに基づいて、死体焼却炉の稼働能力を推定した(表4)。

(20) *Wspomnienia Rudolfa Hössa komendanta obozu oświęcimskiego*, [Memoirs of Rudolf Höss, Commandant of the Auschwitz Camp,] Warsaw, 1965, pp. 204-205. (ヘス『アウシュヴィッツ収容所』(片岡啓治訳), 講談社学術文庫, 1999年, 398頁以下参照。)なお、以下も参照。「ヘスの数字を足し上げれば113万人になる。しかし、1947年1月21日の最終陳述で、ヘスは『私がアウシュヴィッツに赴任していたとき、そこでは何百万もの人々が死亡したが、その正確な人数を確定することはできない。』と以前の主張を繰り返した。」(Piper(1996: 9))

焼却施設では定期点検や故障による臨時点検などが行われたために、一日も休みなく稼働して512万体の死体（表4における訳注2参照）を焼却したとは考えられないこと、また適宜野外の死体焼却場をも使用していたことを勘案して、ソ連委員会は、「アウシュヴィッツ収容所がその全期間を通じて、ソ連、ポーランド、フランス、チェコスロバキア、ルーマニア、ハンガリー、ブルガリア、オランダ、ベルギーなどから移送された少なくとも400万人を絶滅させたとの結論に至った。」⁽²¹⁾

さらにまた、戦後まもなくクラクフでルドルフ・ヘスの裁判を担当し、みづからヘスを尋問したこともあるヤン・セーンほか2名⁽²²⁾を専門委員とする「ポーランドにおけるドイツ軍の犯罪調査中央委員会（Main Commission for the Investigation of German Crimes in Poland）」（以下、「ポーランド委員会」と言う。）の代表団が、戦争直後のおよそ5ヶ月間をかけて、アウシュヴィッツで調査した（1945年5月～1945年9月26日）。この調査でもまた、目撃証言に基づいて死体焼却場の平均処理能力が推定されたが、死体焼却場とその代用施設（野外の死体焼却溝）の稼働日数、停止日数、修繕日数を勘案して、「アウシュヴィッツ＝ビルケナウ収容所の殺戮施設でのガス殺後に焼却された人々を400万人以上と推定した。」⁽²³⁾

上記したソ連とポーランドの2つの委員会

はいずれも、死亡者数を約400万人と推定した。冷戦下にあつては、ソ連、東ドイツ、ポーランド、チェコスロバキアなどの東欧諸国ではこの数字がよく引用された。（これにたいして、西側では、ヘスの供述に基づく250万人説がよく引用された。）⁽²⁴⁾

ポーランド最高国民裁判所に提出された起訴状は、ポーランド委員会の推定に基づくものであったが、同最高裁は犠牲者総数が300万人乃至400万人であることも十分あり得るとして、ヘスの罪状を次のように認定した。

- ・公式に収容者として登録した約30万人の殺害への関与。
- ・即時殺害を目的としてヨーロッパの様々な国から〔アウシュヴィッツ〕収容所に強制移送したが、公式には収容者登録がされていない、不特定多数（犠牲者—ピペル）の殺害への関与。そのほとんどはユダヤ人で確実に250万人は下回らない。
- ・1万2000人は下らないソ連軍捕虜に対する殺害への関与⁽²⁵⁾。

戦争犯罪への裁判はニュルンベルク（ドイツ）でも行われた。I. G. ファルベン社、帝国保安本部、オズヴァルト・ルートヴィヒ・ポール⁽²⁶⁾を裁いた連合軍の軍事法廷に提出され

(21) Piper (1996: 11). ただし、この引用は AMS, *Trial of Hoess*, vol.8 l. 28-29 に基づく。

(22) 検事ペハルスキー (Pechalski) と工学教授ロマン・ダヴィドフスキー (Roman Dawidowski)。

(23) Piper (1996: 12). ピペルは K. Smolen. “Auschwitz Concentration Camp,” in K. Smolen (ed.), *Selected Problems from the History of KL Auschwitz, Oświęcim*, 1979, pp. 26-28 を参照している。

(24) Piper (1996: 13).

(25) Cf. Piper (1996: 13).

(26) ポールは親衛隊経済管理本部長官。親衛隊で

た起訴状には、アウシュヴィッツの犠牲者数が300万人乃至400万人とされていたが、国際軍事法廷が下した判決ではそれよりも少なく、次のような記述がある⁽²⁷⁾。

アウシュヴィッツに関して、当法廷は、1940年5月から1943年12月1日までこの収容所「アウシュヴィッツ複合収容所」で総司令官の職にあった者「ルドルフ・ヘス」を証人として尋問した。この証人は、在任中にアウシュヴィッツ収容所だけで250万人を殺害した他に、50万人が飢えと過労で死亡したと供述している。

こうしてクラクフとニュルンベルクで行われた戦争裁判を通じて、東側では400万人説、西側では250万人説が形成されることになった⁽²⁸⁾。

はヒムラー、ハイドリヒに継ぐ序列第三位。人道にたいする犯罪で1951年死刑。Cf. “Subsequent Nuremberg Proceedings, Case #4: The Pohl Case,” in: *Holocaust Encyclopedia*, by the United States Holocaust Memorial Museum, <https://encyclopedia.ushmm.org/content/en/article/subsequent-nuremberg-proceedings-case-4-the-pohl-case>, accessed on December 2, 2022.

(27) Piper (1996: 13). ピペルは Tadeusz Cyprian, Jerzy Sawicki (eds.), *Materialy Norymberskie*, [Nuremberg Materials,] Warsaw, 1948, p. 232 を参照している。

(28) 「実際の犠牲者数の問題にかんする分析は、一般誌や時事雑誌はもちろんのこと、学術刊行物でもめったに目につくことない。ポーランド、東ドイツ、チェコスロバキアで出版された研究は、ソ連委員会による推定[400万人]を引用しているが、西側の出版物には、収容所で殺害されたユダヤ人の数を100万人～250万人とするヘスの数字を受容する傾向がある。」(Piper (1996, 13).)

3. 移送者数と死亡者数の推定 (その2：400万人説をめぐって)

(1) 400万人説の継承

ピペルによれば、犠牲者数の推定に関する先行研究の中で、「最初の本格的」と言われる著作を著したのは、ポーランド委員会専門委員としてアウシュヴィッツで現地調査をしたヤン・セーン⁽²⁹⁾である。セーンは400万人説を踏襲し、次のように述べている。

ビルケナウのすべての死体焼却場と補助施設の稼働時間を勘案すると、利用可能なすべての証拠が明らかにしていることは、当該施設でガス殺され焼却された人が400万人を下らないということである⁽³⁰⁾。

(29) セーンはナチスの犯罪を暴き、「ポーランドのフリッツ・バウアー」と言われた(バウアーは、アイヒマンの逮捕に尽力した西ドイツの検事総長)。セーンについて以下を参照。Matthias Arning, “Während die deutsche Justiz wartet und wartet,” <https://www.fr.de/kultur/literatur/waehren-d-die-deutsche-justiz-wartet-und-wartet-92050949.html> (26. Jan. 2023), accessed on February 7, 2023. 最近、セーンの事績が刊行された(Filip Gańczak, *Jan Sehn: Tropiciel Nazistów*, [Jan Sehn. The Nazi Tracker,] Wołowiec: Wydawnictwo Czame, 2020)。この著書については以下を参照。①【著書の紹介】Piotr Gociek (translated by Soren Gauger), “Biography Reportage: Filip Gańczak, Jan Sehn. The Nazi Tracker,” <https://booksfrompoland.pl/books/jan-sehn-the-nazi-tracker/>, accessed on February 7, 2023; ②【著者へのインタビュー】“Jan Sehn. Poland’s Forgotten Nazi Hunter,” <https://polishhistory.pl/jan-sehn-polands-forgotten-nazi-hunter/>, accessed on February 7, 2023.

(30) Piper (1996: 13).

その後、ポーランドの歴史学者チャスワフ・マダイチクは400万人説にたいして次のように疑義を提起した。

犠牲者400万人の内訳は、ユダヤ人270万人、ポーランド人130万人、そしてその他とされている。多くの学者が、この数字は全体数字（global）としても、内訳ごとの数字についても、過大に過ぎると疑義を提起している⁽³¹⁾。

しかし、400万人説に立つ言説が少なからず続いた⁽³²⁾。

(31) Czesław Madajczyk, *Polityka Trzeciej Rzeszy w okupowanej Polsce*, [The Policy of the Third Reich in Occupied Poland,] Warsaw, 1970, vol. II, pp. 293–294, ただし、引用はPiper (1996: 14) による。

(32) ピペルは以下の著述を挙げている(Piper (1996: 14))。

①Ota Kraus and Erich Kulka, *Die Todesfabrik*, Berlin, 1957, pp. 172–173; idem, *Noca a mlha*, [Night and Fog,] Prague, 1958, p. 112; ②Krzysztof Dunin-Wasowicz, *Resistance in the Nazi Concentration Camps 1933–1945*, Warsaw, 1982, p. 44; ③Anna Pawelczynska, *Values and Violence in Auschwitz, a Sociological Analysis*, London, 1979, p. 25; ④Czesław Pilichowski, *No Time-Limit for These Crimes*, Warsaw, 1980, pp. 156–157; ⑤Kazimierz Smolen, *Auschwitz 1940–1945, Guide-Book through the Museum*, Katowice, 1978, p. 19, and idem, “Bestrafung der Verbrecher von Auschwitz”, in: Wolfgang Müller (ed.), *Auschwitz, Geschichte und Wirklichkeit*, Reinbek bei Hamburg, 1980, p. 211; ⑥Danuta Czech, “Konzentrationslager Auschwitz, zarys historyczny,” [“Concentration Camp Auschwitz: Historical Outline,”] in: *ibid.*, p. 36; ⑦Franciszek Piper, “Eksterminacja,” [“Extermination,”] in: *ibid.*, p. 124.

(33) Gerald Reitlinger, *The Final Solution*, London, 1971. レイトリンガー（1900年～1978年）は、イギリスの美術史家。戦後東側の死亡者400万人説を批判する論文を著した。

(34) Georges Wellers, “Essai de détermination du nombre de morts au camp d’Auschwitz,” *Le*

(2) 400万人説への疑問

ジェラルド・レイトリンガー（1971年）⁽³³⁾とジョルジョ・ウェレ（1983年）⁽³⁴⁾が「アウシュヴィッツに強制移送された者とそこで犠牲になった者の人数に関するより徹底的で詳細な分析」を公表した。

レイトリンガーは「アウシュヴィッツに移送されたユダヤ人を79万人～84万人、収容された非ユダヤ人を10万人として、死亡者は100万人を上回らないと主張した。」⁽³⁵⁾

他方で、ジョルジョ・ウェレは、「その総数[移送者]を161万3455人とした（その内訳はユダヤ人143万3405人、ポーランド人など14万6605人、ジプシー2万1665人、ロシア人1万1780人）。このうち147万1595人が死亡したとされている（その内訳はユダヤ人135万2980人、ポーランド人など8万6675人、ジプシー2万255人、ロシア人1万1685人）。」⁽³⁶⁾

Monde Juif, no. 112 (October–December 1983). この論文は以下で閲覧可能。“Essai de détermination du nombre de morts au camp d’Auschwitz, Georges Wellers, Dans Le Monde Juif 1983/4 (N° 112), pages 127 à 159,” by Cairn.info: <https://www.cairn.info/revue-le-monde-juif-1983-4-page-127.htm>, accessed on January 23, 2023. ジョルジュ・ウェレ（1905年～1991年）は、フランスの生理学者、ホロコースト研究者。1941年、アウシュヴィッツに収容、1945年、ブーヘンヴァルトで解放。1961年のアイヒマン裁判で証言した。その証言については以下を参照。George Wellers, “Testimony about Conditions in France & Deportations from France, At the Eichmann Trial 9 May 1961 (Selected Extracts),” <http://www.holocaustresearchproject.org/trials/wellers.html>, accessed on January 23, 2023).

(35) Reitlinger, *The Final Solution*, pp. 500f. ただし、引用はPiper (1996: 15) による。

(36) Wellers, “Essai de détermination,” pp. 153, 155. ただし、引用はPiper (1996: 16) による。

表5 アウシュヴィッツへの移送者 (1940年～1945年*) (人)

	未登録収容者		登録済み収容者		合計
①ユダヤ人	890 000		200 000	(205 000)	1 100 000 (1 095 000)
②ポーランド人	10 000		130 000～140 000	(137 000)	140 000～150 000 (147 000)
③ジプシー	2 000		21 000		23 000
④ソ連軍捕虜	3 000		12 000		15 000
⑤その他**			25 000		25 000
合計	900 000	(905 000)	400 000		1 300 000 (1 305 000)

(訳注) * 特別な連番を割り当てられた登録済みのジプシーとソ連軍捕虜については例外があるが、それ以外は現在入手可能な資料と文献に基づく推定値。

** チェコ、ロシア、ベラルーシ、ウクライナ、ユーゴスラビア、フランス、ドイツ、オーストリアなどの国籍保有者。全員が登録済み。

(出所) Piper (1996: 51). ただし、原論文では「表1」。

4. 移送者数と死亡者数の推定
(その3：ピペルの推定(1996年))

(1) 移送者数 (約130万人)

ピペルの推定は、これらの一連の先行研究を踏まえてなされた。ここでは、移送者数と死亡者数に分けて、ピペルの見解を紹介する。最初に、移送者総数を約130万人と推定したピペルの総括表を掲げる(表5)。以下、この表5の表側に記載したカテゴリーごとに分けて、取り上げる。

① ユダヤ人

ピペルはユダヤ人移送者を約110万人と推定した(表5①の合計欄)。国別の移送者は表6に表章されるが、年別国別のユダヤ人移送者に関するさらに詳細な総括表も作成された。それは、本稿末尾に付表とした(付表 アウシュヴィッツへのユダヤ人移送者数(1940年～1945年))⁽³⁷⁾。以下、国別に見ることにする。

(37) 木村和範「スロバキアにおけるホロコーストとその歴史認識」『学園論集』(北海学園大学)第194号, 2024年7月, 8頁に掲載した表3に同じ。

表6 アウシュヴィッツ＝ビルケナウに移送されたユダヤ人の国別人数* (人)

(i) ハンガリー**	438 000
(ii) ポーランド	300 000
(iii) フランス	69 000
(iv) オランダ	60 000
(v) ギリシア	55 000
(vi) ボヘミア・モラヴィア保護領	46 000
(vii) スロバキア**	27 000
(viii) ベルギー	25 000
(ix) ドイツとオーストリア	23 000
(x) ユーゴスラビア**	10 000
(xi) イタリア	7 500
(xii) ノルウェー	690
(xiii) その他(不明を含む)	34 000
合計	1 100 000 (1 095 190)

(原注) 現在入手可能な資料と文献に基づく。

(訳注) * 国境線は第二次世界大戦前。

** 国境線は第二次世界大戦中。

(出所) Piper (1996: 53). ただし、原論文では「表4」。

(i) ハンガリー⁽³⁸⁾

1944年3月19日にドイツはハンガリーに侵攻し、短期間の内に全土を占領下に置いた。この日、アイヒマンの^{アインザッツグルッペ}特別分遣隊と全権を委ねられたエトムント・フェーゼンマイヤーが

(38) Piper (1996: 27).

ブダペストに着任し、現地の反ユダヤ主義政権の協力を得て、強制収容所への大量かつ短期強制移送が実現した。ハンガリーからのアウシュヴィッツへの強制移送は、1944年4月29日に一番列車が出発してから、7月9日に元首ミクローシュ・ホルティが移送を中止するまでのわずか2ヶ月あまりで行われた。この短期間における大量移送に対処するために、ビルケナウ収容所ではゾンダーコマンドの増員配置により施設設備をその極限にまで稼働させた。アウシュヴィッツをホロコーストの象徴的存在としたのは、この時期の大量殺戮に依ることが大きい。ピペルは、ハンガリー・ユダヤ人の移送者総数をフェーゼンマイヤーが本国に報告した数字に基づいて、43万7402人（約43万8000人）としている。

(ii) ポーランド⁽³⁹⁾

1939年10月のドイツ侵攻により、280万人のユダヤ人が占領下に置かれた。マダイチク⁽⁴⁰⁾の推定では、戦時中の死亡者のうち、200万人がナチスの収容所で死亡したとされる。ピペルはラウル・ヒルバーク⁽⁴¹⁾の推定を採用するなどして、この200万人のうち、アウシュヴィッツでの死亡者を30万人とした（残りの170万人はアウシュヴィッツ以外

の収容所で死亡したとする）。これらの死亡者はアウシュヴィッツへの移送者でもあることから、死亡者30万人をもってポーランド・ユダヤ人の移送者数の下限としている。アウシュヴィッツの死亡者は必ずその収容所に移送されている。このことから、死亡者数をもって移送者数の下限と考えることは、合理的である。

(iii) フランス

ナチス・ドイツによるホロコーストの告発に精力を傾けたセルジュ・クラスフェルド⁽⁴²⁾は、迫害されたフランス・ユダヤ人の名簿と移送統計を著した。それによれば、6万9000人がアウシュヴィッツに移送されたとされる⁽⁴³⁾。

(iv) オランダ

オランダ国立戦争公文書館に保管されている資料により、6万人がアウシュヴィッツに移送されることが確認される。

(v) ギリシア

戦後になってから、アウシュヴィッツの駅

(42) クラスフェルド夫妻（セルジュとベアテ）については、以下を参照。<https://www.britannica.com/biography/Beate-and-Serge-Klarsfeld>, accessed on February 23, 2023.

(43) Serge Klarsfeld, *Memorial to the Jews*, p. xxvi. [*Memorial to the Jews Deported from France, 1942-1944: Documentation of the Deportation of the Victims of the Final Solution in France*, Beate Klarsfeld Foundation, 1983. 【原書フランス語版初版】 Serge Klarsfeld, *Le mémorial de la déportation des Juifs de France*, Paris: Klarsfeld, 1978 ; 【新版】 Nouvelle édition, mise à jour, avec une liste alphabétique de noms, FFDJF (Files et filles de déportés juifs de France), 2012. (<https://steve-morse.org/france> (accessed on February 8, 2023) にアクセスすると、この著書に収録された移送者を検索することができる。)

(39) Piper (1996: 28).

(40) Madajczyk, *Polityka Trzeciej Rzeszy w okupowanej Polsce*. [The Policy of the Third Reich in Occupied Poland.] (脚注31参照。)

(41) Raul Hilberg, *Die Vernichtung der Europäischen Juden. Die Vernichtung der Europäischen Juden: die Gesamtgeschichte des Holocaust*, Berlin, 1982, p. 811. (『ヨーロッパ・ユダヤ人の絶滅』(全2巻)(望田幸男・原田一美・井上茂子訳), 柏書房, 1997年, 下巻408頁「表B-1 原因別死亡者数」。) [訳書の底本: *The Destruction of the European Jew*, revised and updated edn., 1997.]

舎でギリシア語とドイツ語で書かれた乗車券が発見された。この発券番号からアウシュヴィッツには5万5000人が到着したと推定される⁽⁴⁴⁾。

(vi) ボヘミア・モラビア保護領

保護領ではユダヤ人がテレジエンシュタット・ゲットーに集住させられた。1942年10月5日～1944年10月28日にアウシュヴィッツに4万6000人が移送されたことが確認される⁽⁴⁵⁾。

(vii) スロバキア

モシェット公文書館（イスラエル）の資料に基づいて、ピペルは、1939年3月にチェコスロバキア第1共和国から独立し、ドイツの衛星国となったスロバキアでは、全部で5万9000人が強制移送されたが、そのうち3万2000人はマイダネクとソビボルの収容所に移送され、2万7000人がアウシュヴィッツに移送されたと述べている⁽⁴⁶⁾。

(viii) ベルギー

セルジュ・クラスフェルドとマキシム・ステインベルクの共同研究に基づけば、1942年8月4日～1944年7月31日に、ベルギー・ユダヤ人2万5000人がアウシュヴィッツに移送された⁽⁴⁷⁾。

(ix) ドイツとオーストリア

マーチン・ギルバートの『ホロコースト地図』(1988年)⁽⁴⁸⁾を参照し、ドイツ・ユダヤ人12万8091人の名前を収録した記念誌などに基づいて、ピペルは、アウシュヴィッツに移送されたドイツとオーストリアのユダヤ人を2万3000人と推定している⁽⁴⁹⁾。

(x) ユーゴスラビア

ピペルは、「不完全なデータ」に基づく推計であると断った上で、ユダヤ人1万人がアウシュヴィッツに移送されたと述べている⁽⁵⁰⁾。

(xi) イタリア

ジュリアナ・ドナーティの研究に基づくと、移送されたユダヤ人の概数は7500人である⁽⁵¹⁾。

(xii) ノルウェー

親衛隊帝国指導者（ハインリヒ・ヒムラー）付統計官リヒャルト・コルヘルが1943年3月にヒムラーに提出した「ヨーロッパのユダ

Steinberg, *Memorial de la deportation des Juifs Belgique*, Brussels, 1982.

(48) Martin Gilbert, *The Dent Atlas of the Holocaust, Complete History*, London, 1988 (Second edn., 1993), p. 244; *Gedenkbuch. Opfern an der Verfolgung der Juden unter der nationalsozialistischen Gewaltherrschaft in Deutschland 1933–1945*, bearbeitet von Bundesarchiv, Koblenz und dem Internationalen Suchdienst, Arolsen, p. 1746. Koblenz: Bundesarchiv, printed in Frankfurt/Main by J. Weisbecker, 1986; Cf. *ditto*, *Jewish History Atlas*, Revised edn., New York: Macmillan Pub. Co., 1969, available in the Website of *Internet Archive*, <https://archive.org/details/B-001-001-163/mode/2up>, accessed on Nov. 14, 2024.

(49) Piper (1996: 33).

(50) Piper (1996: 36).

(51) Piper (1996: 36). Cf. Giuliana Donati (ed.), *Ebrei in Italia: Deportazione, Resistenza*, Giuntina-Firenze, 1975, Table: Deportazione degli Ebrei dall'Italia.

(44) Piper (1996: 32).

(45) Piper (1996: 32). Cf. H. G. Adler, *Theresienstadt 1941–1945*, Tübingen, 1955, pp. 50, 688–694.

(46) Piper (1996: 34). 第一波の強制移送（1942年3月26日～10月26日）で1万9000人が⁵、またスロバキア国民蜂起後（1944年8月～11月）には、蜂起に加担したなどとする反政府、反ドイツの8000人が⁶、それぞれアウシュヴィッツに送られた。Cf. Moshet Archives, *Giv'at Haviva*, Israel, Sygn. D. 1.5705.

(47) Piper (1996: 34). Cf. Serge Klarsfeld and Maxime

表7 ポーランド人の移送者数 (1940 年～1945 年)

移送元	ポーランド人	備 考
(1) 要教育 (EH)	1 万 1186 人	表 2(iv)
(2) 刑務所 (総督府内)	8 万 7447 人	刑務所側の資料による
(3) 未登録	1 万人	表 5 ②
(4) 移送元不明等	3 万 8475 人	国別連行人数で按分
合 計	14 万 7108 人	概数: 14 万 7000 人 (14 万人～15 万人)

(出所) Piper (1996: 18) 等に基づく。

ヤ人問題の最終解決」と題する報告書は、「コルヘル・レポート (Korherr Report)」と言われている⁽⁵²⁾。これによれば移送されたユダヤ人は 690 人であるが、このほとんどが殺害されたと考えられることから、死亡者数も 690 人と見てよい。

(xiii) その他

その他に、様々な収容所等から 3 万 4000 人が移送された。

以上から、これらを合算したピペルは、ユダヤ人約 110 万人がアウシュヴィッツに移送されたと述べている。

② ポーランド人

表 5 (前掲) では、ポーランド人 (ユダヤ人を除く) の移送者数は 14 万 7000 人と推定

されている (未登録 1 万人, 登録済み 13 万 7000 人 (表 5 ②参照))。以下では、これを 4 つのカテゴリーに分解する (表 7 (1)～(4))。

アウシュヴィッツの収容登録システムについて述べたとき、要教育対象 (EH) に分類された収容者が 1 万 1186 人いると述べた (表 2 (iv))。ピペルによれば、このような収容者は、そのほとんどがポーランド人である⁽⁵³⁾。これをカテゴリー 1 とする (表 7 (1))。カテゴリー 2 は [ポーランド] 総督府内の刑務所からアウシュヴィッツに移送されて来たポーランド人であり、刑務所の別資料によりその数は 8 万 7000 人である (表 7 (2))。カテゴリー 3 (表 7 (3)) はアウシュヴィッツに移送されて来たが未登録のままのポーランド人であり、その数は 1 万人である (表 5 ②)。カテゴリー 4 は移送元が不明で出身国を特定できない収容者である (表 7 (4))。これは、国別連行人数で按分した結果、3 万 9000 人と推定された。ピペルの推計を表章すれば、表 7 を得る。この合計 14 万 7000 人は、アウシュヴィッツに移送された人数を表章した表 5 ②のポーランド人の人数になる。

(52) Richard Korherr, „Die Endlösung der Europäischen Judenfrage“. この報告書 (Korherr Report) のドイツ語版と英語版は ARC (Aktion Reinhard Camps) によって公開されている (以下参照, アクセス日はいずれも 2022 年 12 月 15 日)。ドイツ語版: “Der Korherr-Report,” (Letztes Update 20. März 2005), in: http://deathcamps.org/reinhard/korherr_de.htm; 英語版: “The Korherr Report,” (Last Update 7 April 2006), in: http://deathcamps.org/reinhard/korherr_en.htm. コルヘル・レポートの解説については次を参照。“The Korherr Report,” (Last Update 16 July 2005), <http://deathcamps.org/reinhard/korherr.html>

(53) Piper (1996: 17).

表8 死亡者(1940年～1945年*)

(人)

	未登録収容者	登録済み収容者	合計
①ユダヤ人	865 000	100 000 (95 000)	1 000 000 (960 000)
②ポーランド人	10 000	60 000～65 000 (64 000)	70 000～75 000 (74 000)
③ジプシー	2 000	19 000	21 000
④ソ連軍捕虜	3 000	12 000	15 000
⑤その他**	データなし	10 000～15 000 (12 000)	15 000 (12 000)
合計	900 000 (880 000)	200 000 (202 000)	1 100 000 (1 082 000)

(訳注) * 特別な連番を割り当てられた登録済みのジプシーとソ連軍捕虜については例外があるが、それ以外は現在入手可能な資料と文献に基づく推定値。

** チェコ、ロシア、ベラルーシ、ウクライナ、ユーゴスラビア、フランス、ドイツ、オーストリアなどの国籍保有者。全員が登録済み。

(出所) Piper (1996: 52). ただし、元論文では「表2」。

③ ジプシー

移送されたジプシー 2 万 1000 人については、収容者が密かに保管した名簿による⁽⁵⁴⁾。

④ ソ連軍捕虜

ソ連軍捕虜 1 万 2000 人については、収容登録番号から割り出した数字であり、「疑問の余地はない。」とされている⁽⁵⁵⁾。

(2) 死亡者数(約 110 万人)

死亡者数についての総括表(表8)を掲げ、カテゴリー別に合計数字について述べる。

① ユダヤ人

アウシュヴィッツに到着したユダヤ人 110 万人のうち、100 万人が死亡したとピペルは推定している(表8①)。

② ポーランド人

第二次世界大戦はドイツによるポーランド

への電撃的侵攻によって始まった(1939年9月)。ピペルによれば、路上を歩行中に検束されて行方不明になったポーランド人もいて、占領下のポーランドは無法状態に置かれたとって過言ではない⁽⁵⁶⁾。1943年4月(ワルシャワ・ゲットー蜂起)と1944年8月(ポーランド国内軍によるワルシャワ蜂起)の二度に亘る蜂起が示すように、ドイツの占領政策は苛斂を極めた。様々な収容所で死亡した者については、レジスタンスが作成した文書や証言を積み重ねると、約 14 万 7000 人と推定される。そのうち、アウシュヴィッツでの死亡者は 7 万人～7 万 5000 人(7 万 4000 人)と推定される(表8②)。

③ ジプシー

表5③に掲げた移送者 2 万 3000 人のうち、2 万 1000 人が死亡したと推定されている(表8③)。

(54) Piper (1996: 18). 2 万 982 人(表5③)

(55) Piper (1996: 18). 1 万 1964 人(表5④)なお、その他については表5の訳注(**)参照。

(56) Piper (1996: 40).

表 9 生残者数

年	他の収容所への移送者等	備 考
(1) 1940 年～1943 年	2 万 5000 人	移送元と移送先の収容所の集計結果による
(2) 1944 年～1945 年	18 万 8000 人	アンジェイ・ストゥルゼレツキーによる
(3) 1940 年～1945 年	1 万人	釈放 1500 人, 脱走 500 人, 戦後解放 8000 人
合 計	22 万 3000 人	戦後まで生き延びた者 [アウシュヴィッツでは死亡しなかった者]

④ ソ連軍捕虜

ソ連軍捕虜に対する処遇方針は、ソ連侵攻前に定まっていた。捕縛されたソ連軍政治委員は国際法上の「捕虜(prisoner of war)」ではないとして、後方へ移送せずに、最寄りの収容所で処刑することになっていた⁽⁵⁷⁾。後方に移送されたソ連軍捕虜の処遇（作業、食事、被服、住居）は最悪であった。死亡者に関する部分的記録は残されているが、それでも網羅的とはいいがたく、ピペルは、「このことに関する資料がないため、この数字を検証することはできない。我々としては、登録されたソ連軍捕虜約 1 万 2000 人に加え、少なくとも未登録の捕虜 3000 人が殺害されたと推断することによしとしよう。」⁽⁵⁸⁾ と言っている（表 8 ④）。

⑤ その他

以上①～④の死亡者の合計を求め、それにその他の死亡者 1 万 2000 人を加えれば、死亡者総数として 110 万人を得る（表 8）。このようにして、ピペルは、この死亡者総数 110 万人と推定した。この方法は、様々なカ

テゴリーの死亡者を足し上げる方法であることから、それを試みに「加算方式」と言うことにする。

ただし、この「加算方式」では、様々な想定や前提が置かれている。これは、確かな資料による十分な推定とはいいがたい。ピペルはその方式に危うさが潜むと考えたのかもしれない。そこで「加算方式」による推定を「検算」するために、移送者総数 130 万人から別の方法によって生残者を推定し、それを移送者総数から減じて、死亡者総数を推定しようとした。この方式を試みに「減算方式」と言うことにする。項を改めて、このことについて述べる。

⑥ 「減算方式」による死亡者総数の推定

「加算方式」を補強すべく考案された「減算方式」は、アウシュヴィッツ収容所内の収容者の増減に着目する。それを鍵にして戦後における生残者の総数を推定しようというわけである（表 9）。そのとき、収容者の移動人数が鍵になる。

一度はアウシュヴィッツの収容者として受け入れた収容者が他の収容所に移動となる場合、この移動人数は、送り出すアウシュヴィッツと受入収容所の両方でカウントされる。1940 年から 1943 年までの間に、アウシュ

(57) ラインハルト・ハイドリヒはこの処遇の対象者を「好ましからざる」ソ連人にまで広げたと言われている (Piper (1996: 41))。

(58) Piper (1996: 43)。

ヴィッツを出て、他の収容所に移送された人数は2万5000人である(表9(1))。この人数については送り出すアウシュヴィッツ側と受入側との間に齟齬はない。しかし、1944年から1945年までの移動人数は、送り出す側と受け入れる側の両方の収容所でその人数が異なっている。ピペルはアンジェイ・ストゥルゼレツキーのデータに基づいて、この時期の移動人数を18万7820人(18万8000人)としている⁽⁵⁹⁾(表9(2))。これに1万人(釈放された者1500人、脱走した者500人、戦後になって解放された者8000人)(表9(3))を足せば、1944年～1945年に移動した者の人数として19万8000人を得る。これらの3つにカテゴリーの人数(表9の(1)(2)(3))を足し上げれば、22万3000人を得る(表9)。ピペルは、アウシュヴィッツから他の収容所に移送された収容者が戦後まで生き残ったと想定しているが、アウシュヴィッツでは死亡しなかったという趣旨であると理解したい。移送中での死亡、あるいは移送後の死亡は十分に考えられるからである。

すでに、ピペルは移送者総数を130万人と推定している。これから、表9(合計欄)に示すアウシュヴィッツでは死亡しなかった者の数(22万3000人)を引けば、アウシュヴィッツでの死亡者数の推定値として、108万2000人(約110万人)を得る⁽⁶⁰⁾。この死亡者数は、表8の110万人と一致する。

(59) Piper (1996: 45). Cf. Andrzej Strzelecki, *Ewakuacja, likwidacja i wyzwolenie KL Auschwitz*, [The Evacuation, Liquidation and Liberation of Auschwitz Concentration Camp,] Oswiecim, 1982, tables, pp. 248-318.

(60) Piper (1996: 46).

おわりに

本稿では、アウシュヴィッツにおける被害実態を、移送者と死亡者の両面から明らかにしようとしたピペルの研究成果を紹介した。ピペルのむすびの言葉を、以下に全文引用して、本稿を擲筆する。

- 1) アウシュヴィッツの収容者と犠牲者の人数というテーマを取り上げた様々な文献では、全世界に及ぶナチスによる犠牲者の人数、各国別の犠牲者の人数、強制収容所や絶滅収容所やその他の殺害の場所などの推定に関して今なお食い違いが見られる。
- 2) 犠牲者が死亡した場所については特定されていないものがある。
- 3) アウシュヴィッツに到着した移送者の中には、文書にその痕跡を残さないうままに、その存在が完全にかき消された者がいる。
- 4) ポーランドのユダヤ人の移送列車で到着した者は当初計画よりも多かった可能性がある。本研究では、さしあたりアウシュヴィッツ収容所の実際の犠牲者は110万人～150万人と推定する。

* * * * *

本稿は、第三帝国に占領されるか、もしくはそれに従属したヨーロッパ諸国においてナチスが実行した絶滅政策に関する歴史学者による長年に亘る研究成果を

まとめたものである。それらの先行研究なしには、この研究は完遂できなかった。

本稿は、ユダヤ人絶滅の最大拠点たるアウシュヴィッツ収容所の特異性を明らかにしている。約 100 万人の罪なき男性、女性、そして子どもたちが、ただユダヤ人であるというだけで、ナチスによってその政治的目的のために故意に殺害された。

ドイツ占領下にあった 6 年の間、何千もの刑務所や処刑場で殺害されたポーランド人にとって、アウシュヴィッツは苦しみの象徴 (a symbol of the sufferings) でもある。アウシュヴィッツという地名は、何万人もの愛国者、レジスタンスのメンバー、文化・科学・社会生活の各方面を代表する著名な知識人の多数が死を

迎えた場所として、ポーランドの人々の心の中を恐怖で満たすことになった。

アウシュヴィッツがジプシーにとって特別な意味を持っていることも忘れてはならない。この数少ない人々の中から 2 万人近くが、飢餓、病気、ガス殺によって、収容所で命を断たれたからである。

アウシュヴィッツはすべての国にとって悲劇の場であっただけではない。そこで愛する者が殺害されたすべての人々の一人ひとりにとっても悲劇の場であった。

アウシュヴィッツは、あらゆる暴力、人種的・宗教的・民族的憎悪への無関心に対する不吉な警告塔として、人類全体の前に^{そび}聳え立っている⁽⁶¹⁾。

(61) Piper (1996: 49f.).

付表 アウシュヴィッツへのユダヤ人移送者数 (1940年～1945年)

移送年月		移送人数													
年	月	合計	出発地												強制収容所、 補助収容所、 その他(a)
			ハンガリー	ポーランド	フランス	オランダ	ギリシア	ボヘミア・モ ラヴィア保護領 テレジーン シュタット	スロバキア	ベルギー	ドイツと オーストリア	ユーゴスラビア	イタリア	ノルウェー	
1940- 1941		1 500	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 500 (b)
1942	2	-(c)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3	3 112	-	-	1 112	-	-	-	2 000	-	-	-	-	-	-
	4	8 004	-	-	-	-	-	-	8 004	-	-	-	-	-	-
	5	7 716	-	6 130	-	-	-	-	-	-	586	-	-	-	1 000
	6	21 496	-	16 000	4 037	-	-	-	1 059	-	-	-	-	-	400
	7	19 465	-	-	7 930	5 978	-	-	4 810	-	510	-	-	-	237
	8	41 960	-	13 000	13 123	6 265	-	-	-	5 990	-	3 500	-	-	82
	9	26 591	-	-	12 134	6 675	-	-	1 992	5 790	-	-	-	-	-
	10	22 841	-	-	-	11 965	-	1 866	860	4 841	759	1 500	-	-	1 050
	11	28 000	-	18 000	3 745	5 199	-	-	-	-	1 001	-	-	-	55
	12	18 025	-	14 000	-	2 496	-	-	-	-	997	-	-	532	-
1943	1	57 605	-	44 246	-	3 594	-	6 000	-	1 555	2 210	-	-	-	-
	2	21 039	-	8 682	2 998	4 283	-	1 001	-	-	4 075	-	-	-	-
	3	26 360	-	7 000	1 000	-	10 002	-	-	-	8 200	-	-	158	-
	4	28 034	-	-	-	-	24 921	-	-	1 400	1 688	-	-	-	25
	5	16 325	-	1 000	-	-	10 930	-	-	-	395	4 000	-	-	-
	6	9 479	-	6 145	1 018	-	880	-	-	-	360	-	-	-	1 076
	7	7 194	-	-	2 000	-	-	-	-	1 553	-	-	-	-	3 641
	8	50 105	-	45 926	-	2 005	1 800	-	-	-	374	-	-	-	-
	9	23 330	-	12 800	1 000	2 971	-	5 007	-	1 425	127	-	-	-	-
	10	8 688	-	1 386	2 000	1 007	-	1 313	-	-	148	-	1 031	-	1 803
	11	13 620	-	8 051	1 200	2 144	-	-	-	-	69	-	415	-	1 291
	12	8 577	-	800	1 850	-	-	5 007	-	-	79	-	215	-	626
1944	1	6 434	-	2 000	1 155	949	-	-	-	657	83	-	584	-	1 006
	2	4 774	-	104	2 714	1 015	-	-	-	-	50	-	485	-	406
	3	4 557	-	679	2 501	1 331	-	-	-	-	32	-	-	-	14
	4	8 666	1 800	564	2 504	240	1 500	-	-	625	61	-	606	-	766
	5	228 674	215 436	27	2 200	453	-	7 503	-	507	560	-	575	-	1 413
	6	169 343	164 425	761	1 100	496	2 000	-	-	-	46	-	517	-	-
	7	72 419	55 741	9 811	1 300	-	-	-	-	563	485	-	1 805	-	2 714
	8	17 218	131	4 509	493	-	2 500	-	-	-	56	-	250	-	9 279
	9	10 416	-	3 393	-	1 019	-	3 999	-	-	68	-	-	-	1 937
	8/9	65 000	-	65 000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	10	18 101	152	-	-	-	-	14 403	-	-	31	-	102	-	3 413
	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8/9	7 936	-	-	-	-	-	-	7 936	-	-	-	-	-	-
	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1945	1	14	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-
1941- 1944	不詳	1 837	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 000	837	-	-
合計		1 084 457	437 685	290 464	69 114	60 085	54 533	46 099	26 661	24 906	23 064	10 000	7 422	690	33 734
概数		1 100 000 (1 095 190)	438 000	300 000	69 000	60 000	55 000	46 000	27 000	25 000	23 000	10 000	7 500	690	34 000

(原注)

- Danuta Czech, *Kalendarium der Ergebnisse im Konzentr atiorclager Auschwitz-Birkenau 1939-1945*, Reinbek bei Hamburg 1989.
- 大量移送の以前に非ユダヤ人とともに移送されたユダヤ人の概数。1941年5月から12月までの間、ユダヤ人1079人はこのようにして移送された。
- データの欠損。

(出所) Franciszek Piper, *Auschwitz: How Many Perished Jews, Poles, Gypsies...*, Oświęcim 1996 所載の巻末折込統計表。